

報 告

第九十一回 経済研究会報告

五月十八日(火)於 寧靜館會議室

発表者 辻 博助教授

司会者 宗藤圭三教授

テーマ 「論理実証主義と統計学」

(出席者) 小松、松井、松山、黒松、今西、岩根、岡、西川

(良)、入江、古米、榎原、渡辺、野間、山下、西

- 一、柏博専任講師は、本年四月より助教授に任命されました。
- 一、藤村幸雄専任講師は、本年四月より助教授に任命されました。
- 一、小森瞭一助手は、本年四月より専任講師に任命されました。
- 一、岡谷元治教授は、中国留学のため四月羽田を出発されました。
- 一、西村鶴通教授は、ヨーロッパ留学のため四月羽田を出発され
ました。
- 一、榎原勝夫助教授は、一年間のアメリカ留学を終えて、四月に
帰国されました。

第九十回 経済研究会報告

五月四日(火)於 寧靜館會議室

発表者 今村 宏専任講師

司会者 岩根達雄教授

テーマ 「貨幣の取引需要と利子率」

(出席者) 小松、宗藤、松井、黒松、相見、岡、西川(良)、
伊藤、入江、辻、榎原、渡辺、野間、山下、西川
(玄)、柏、藤村、森、小森、坂本、渡谷

らの解答の一部を用意するのが本研究の目的である。

- 統計学、とくに「推計学」と呼ばれているものに焦点を絞りつ
つ、その系譜をえがいてみれば图(次頁)の如くである。すなわち
推計学は、「賭の数学」に端を発する確率論を支柱とし、思想的背
景としては、ドイツ観念論に対するイギリス経験論の流れをくむ
ケンブリッヂ分析学派や、ウイーン学派を母胎とする論理実証主
義、さらには米国のプログラマチズム、意味論などが考えられる。
今村専任講師の報告の詳細については、本誌第十四卷第五号所
載の研究ノートを参照されたい。

統計学の本質を語る場合、確率論なしに論じ尽せない。とくに

推計学は、母集団と標本との結合を必要不可欠のものとしているが、その結合を可能にするものこそ確率理論である。すなわち、標本から母集団への推論は確率論理に依存する。こうしたことから確率理論の解明は、推計学の本質解明への必要条件となる。確率理論は從来から多くの人々によつて独自の見解のもとに組み立てられてきた。信頼度説・頻度説は、その代表的なものである。ここでは意味論を構成した R・カルナップの確率論に及ぶ。それは、「ある命題の他の命題に対する確証度」と定義される。すなわち、*「とは証拠」*によって *「である」*ことが確証されることであり、記号にして示せば、

$$c(h, e) = q$$

である。この思想は、初期の論理実証主義の「検証」概念の「確証」概念への変化によつて、もたらされたものであり、カルナップの意味論の完成によつて、明確化された。それは、すべて意味論上の概念によつて規定される。定義中の概念についての文章は、事実に關してではなく、論理的分析に基づくものであり、もし、それが真であるならば、それは「*ヒー論*」であり、分析的である。これを彼は「確率₁」として、その論理の中心概念とする。こうした考えは、確率論に、推計学に、從来と異つた意味を与える。しかし、社会現象解明をその本質的任務とする統計学に、こうした確率論をもちこむことに多くの疑惑を抱く者は筆者一人ではあるまい。彼の理論の長所と短所は、おもにこつした理論構成の上から明確にされる。

統計学の系譜

